

国労岡山工務分会

No. 18
2022年 4月 28日
国労岡山工務分会教宣部



4月25日、JR 福知山線列車脱線事故から17年、「祈りの杜」で追悼式が3年ぶりに行われた。JR 西日本長谷川一明社長は「…加害企業としての立場を忘れすることできませんし、深い反省と頂いた教訓をもとに、安全性向上に向けた取り組みをこれからも…」と述べた。3年ぶりの慰霊式では、遺族ら約250人が参列し、黙祷が捧げられた。その中で、「…風化させず、緊張感を持って安全対策をしっかりとやってもらいたい」等の声もふれられている。さらに、遺族から「(組織罰で) 幹部の責任を問うことが、安全に、事故を無くすことに一番効果がある」との報道もあった。いうまでもなく、JR その前身である国鉄は鉄道事故の経験・教訓のエキスパートである。しかし、JR 福知山線で起きた列車事故で、ATS-P (1962年三河島事故を教訓にATSが開発) や脱線防護レール (1963年鶴見事故が契機に開発) など当然というべき安全装置が設置されていなかった。現在、社員教育として、あるべく姿「判断に迷った時は、最も安全と認められる行動をとらなければならない」としているものの、当時は、余裕のない運行時分、回復運転、ミスすれば乗務停止・日勤教育、運転士の短期教育、に加え、要員不足、遠距離通勤、拘束時間の長時間化、徹夜と非番の繰り返しなど緊張を強いられる疲労などが重なっていたといえる。しかし、そのことにJR 西日本会社は全く触れようとはしない。4月24日、地方本部、各支部は、「福知山線列車脱線事故を問う4・24宣伝行動」を岡山駅・倉敷駅で展開。新見地区への「地方ローカル線を守ろう!」のチラシ配布を雨のため断念したが、引き続き、関係する地方自治体との利用促進の協議を強め、有効性を求め、ローカル線の廃止を視野に入れた施策に対して反対していきます。

ローカル線廃止・大幅な減便・駅の無人化に反対!

JRは安全を守れ!

4・25 JR 福知山線列車脱線事故から17年にあたり

当面する行動

5/14 みんなで守ろうローカル線・邑久駅前集会

5/1 第93回メーデー

邑久駅10:00~10:40

岡山市石山公園 10:00

5/21 地方本部団結グランドゴルフ 清音 10:00

